

# 「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」に向けて

## <2050年のまちの姿> 脱炭素や循環型の社会が実現し、コンパクトで豊かな自律した社会

**社会・家庭**

- IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有される
- AIやロボットの活用による快適な生活・健康寿命の延伸

**経済・産業**

- 工場では、AIを活用し、自動的にロボットが生産、人手不足の解消
- エネルギーの多様化、地産地消
- 超省力・高生産なスマート農業

**移動**

- 自動車は、自動走行
- カーシェア、公共交通の組み合わせでスムーズに移動

社会実現される

- より便利で安全・安心な生活
- 煩わしい作業から解放され、時間を有効活用
- 少子高齢社会の解決
- テレワークなど働き方の変化
- 交通渋滞の緩和、高齢者等の移動支援

- 環境面では
- 環境、経済、社会の統合的な向上
  - あらゆる分野、観点からのイノベーション
  - 幅広いパートナーシップの強化、充実

脱炭素、循環、自律・分散型の社会形成

## <現在の状況>

**エネルギーの現状**

- 電力の多くは火力発電（石炭火力・石油火力発電等）に頼っている
- 水力を含む再生可能エネルギーの割合が低い（16%）

**家庭部門**

- 全国の家庭部門の世帯あたりの用途別CO2排出量を見ると、照明・家電製品等が最も大きく、給湯、暖房が続いている
- 枚方市では家庭部門での電力の使用によるCO2排出量が全体の約76%を占める

**業務部門**

- 国内での電力の約1/3は、住宅やオフィス、商業施設等の建築物で消費
- 既存建築物のうち、省エネ基準を満たす建築物は全国で約23%
- 枚方市では、業務部門での電力の使用によるCO2排出量が全体の約76%を占める

**産業部門**

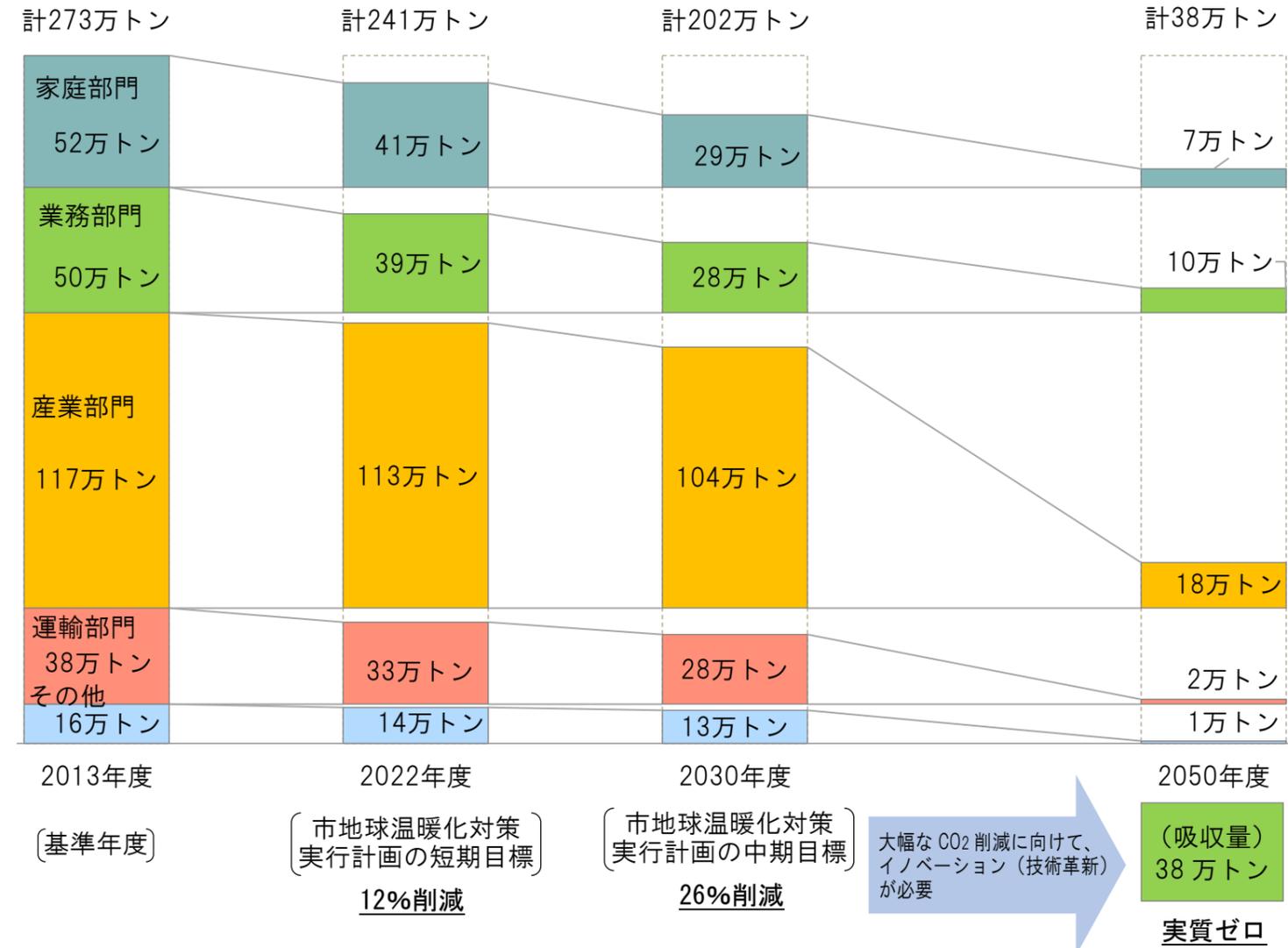
- CO2排出量の9割以上が製造業からの排出
- 枚方市では産業部門での電力の使用によるCO2排出量が全体の約20%を占める

**運輸部門**

- 乗用車の保有台数は、全国で普通・小型乗用車は減少傾向にあるが、軽自動車の保有台数の増加により、全体としては増加傾向
- ハイブリット車、電気自動車等のエコカーの割合は全国で約10%

**その他**

- 枚方市では、ごみの中にプラスチック類が約22%含まれている
- 特定フロンから代替フロンへの転換が進んでいるが、いずれも温室効果が大きく、全国で、機器廃棄時の回収率は4割弱



※将来予測値は、2020年10月時点における試算であり、今後変更の可能性があります。

**エネルギー**

- すべての電力は、化石燃料から脱却し、水力を含む再生可能エネルギー由来となり、CO2排出量実質ゼロ

**家庭部門 45万トン削減**

- 新築住宅はすべてZEH化、既存住宅は100%省エネ基準達成
- 家電製品等の大幅な省エネ化
- 家庭用燃料電池・蓄電池の普及

**業務部門 40万トン削減**

- 業務用建築物はすべてZEB化
- テレワークの拡大によるオフィスビルの大幅な減少
- 機器等の大幅な省エネ化

**産業部門 99万トン削減**

- 設備、機器の更新等による大幅な省エネ化
- 大幅なエネルギー転換

**運輸部門 38万トン削減**

- 渋滞が解消され、自動車は、ほとんどが電気自動車、燃料電池自動車へ
- 自動車の燃料は100%再生可能エネルギー由来

**その他 15万トン削減**

- プラスチックは全て生物由来の原料となり、CO2排出量実質ゼロ
- フロン排出量ゼロ

## <二酸化炭素排出量実質ゼロに向けた取り組み>

**<取り組みの方向性>**

- 最大限の省エネ化
- 再生可能エネルギー100%利用
- 最小限の化石燃料から排出されるCO2は吸収・固定

令和3年3月策定予定の第3次枚方市環境基本計画に方向性を位置付け

令和5年3月策定予定の次期枚方市地球温暖化対策実行計画において、具体的な取り組みを位置付け

国・大阪府・市がそれぞれの役割分担を踏まえた上で、密接に連携して、「実質ゼロ」に向けた取り組みを推進

- <CO2吸収・固定の取り組み>**
- 森林吸収
  - カーボンリサイクル（CO2再利用）や固定化
  - 「カーボンオフセット」などの国内排出量取引制度の活用